

Ik voel mij ontevreden
over het werk wat mij
toebedeeld is.

1 Ik ben het er

volledig mee

oneens

2 Ik ben het er mee

oneens

3 Ik weet niet

4 Ik ben het eens

5 Ik ben het

volledig eens

Ik heb geen controle
over de inhoud van mijn
eigen werk.



Uw dagelijks leven

* 25. Hoe verbonden bent u met de mensen in uw buurt (waar u woont)? **Graad van verbondenheid**

- Er zijn mensen waar ik in het dagelijks leven mee verbonden ben, zoals bijvoorbeeld waar ik mee praat en dagelijkse benodigdheden aan en van leen.
- Ik ben verbonden met de buurt door regelmatig met buurtbewoners te praten.
- Ik voel mij niet erg verbonden en groet buurtbewoners slechts.
- Ik voel mij in zijn geheel niet verbonden.

* 26. Hoe verbonden bent u met de mensen in de buurt (waar u woont)? **Het aantal mensen waar u mee verbonden bent**

- Ik heb kennissen in de buurt en ga met veel mensen om. (20 of meer).
- Ik heb kennissen in de buurt en ga met redelijk wat mensen om (5-19 mensen).
- Ik heb een paar kennissen en ga met weinig mensen in de buurt om (4 of minder).
- Ik ken mijn buren niet.

27. In een gemiddelde maandelijkse periode hoe vaak neemt u deel aan of organiseert u onderstaande activiteiten?

Vrijwel elke dag (5 of meer dagen per week)	Ongeveer 2 tot 4 dagen per week	Ongeveer 1 dag per week	dagen per maand	Ongeveer 1 dag per maand	Vrijwel nooit

Activiteiten welke

buurtrelaties bevorderen
(buurtraad, buurtvereniging,
vrouwenclubs, ouderenclubs,
jeugdclubs, kinderclubs)

Sport, hobby of andere

vrijietidsbestedingsactiviteiten
(elke vorm van sport, kunst of
culturele activiteiten, etc.)

Vrijwilligerswerk, werk voor
een non-profitorganisatie, of
publieke functie (buurthuis,

ouderen of gehandicapten
helpen, kinderen opvoeden,
sport coach, verfraaiing van
de buurt, buurtwacht,
vrijwillige brandweer etc.,
internationale uitwisselingen,
voorstellen voor de buurt)

Andere groepen of activiteiten
(commercieel en industrie,

beroepsorganisaties,
vakbond, religieuze
activiteiten, politiek)

* 28. Selecteer een cijfer van 1 tot 5 dat overeenkomt met het "sociale kapitaal" in de wijk waarin u woont
(sociale netwerken, menselijke contacten, saamhorigheid, hulpvaardigheid).

1 Ik vind dat het verder
ontwikkeld moet worden

2

3

4

5 Ik vind dat het
voldoende is ontwikkeld

Over u en uw gezin

* 29. Geslacht

* 30. Leeftijd

* 31. Burgerlijke staat

32. Werk-gerelateerde status van partner (met wie u samenwoont)

33. Het aantal werkdagen en uren per week van de partner (met wie u samenwoont).

Werkdagen(dag per week)

Werkuren incl overuren
(uur per week)

34. Aantal inwonende kinderen, leeftijd jongste kind (als geen, dan 0 invoeren)

aantal

leeftijd van het jongste
kind
(jaar oud)

* 35. Verzorgt u op het moment een verwante of familielid van uzelf of uw partner (incl. samenlevingscontract)

36. In hoeverre bent u verantwoordelijk voor verzorging van kinderen, huishoudelijk werk of (mantel-)zorg voor anderen?

* 37. Wat is de gezinssamenstelling op uw adres?

* 38. Primaire kostwinner

39. Hoe lang woont u in uw huidige gemeenschap? (stad, dorp of gemeente)

* 40. Bent u tevreden met uw huidige leven

1 Ik ben zeer tevreden

2 Ik ben tevreden

3 Ik ben een beetje
ontevreden

4 Ik ben ontevreden

5 Ik kan dit niet
aangeven

Overzicht van uw Buurtzorg Team en de status van de aangeboden zorg

* 41. Gemeentenaam (van de teamlocatie)

42. Startjaar team

43. Afstanden: Ongeveer hoe ver is een enkele reis van het kantoor naar de meeste cliënten (kilometers, minimaal - maximaal; bijvoorbeeld 0,5 - 10)

44. Productiviteit in Oktobeer 2015 (%)

45. Teamcliënten deze maand

Aantal cliënten in zorg

Aantal bezoeken per
cliënt gemiddeld (*keer per
week*)

* 46. Aantal team-medewerkers (gemiddeld, sinds oktober 2015), excl. oproepkrachten

Totaal

Niveau 5
verpleegkundigen

Niveau 4
verpleegkundigen

Niveau 3 verzorgenden

Anders

平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
「統合ケアを指向した新たな地域包括ケアステーションに関する研究」
分担研究報告書

日本の訪問看護師の仕事と働き方に関する調査研究

研究分担者 山岸 晓美（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室 研究員）

【研究要旨】

独立行政法人福祉医療機構 福祉保健医療情報ネットワーク（WAM-NET）に登録された関東 1 都 6 県の 2,589 訪問看護事業所から二層化無作為抽出により抽出された 500 事業所に対し自記式質問紙を郵送し、各事業所 3 名の訪問看護師に調査を依頼した。最終的に 92 事業所、257 名の訪問看護師から回答を得、本邦の訪問看護師の就業意識や労働条件、働き方や日常生活について把握した。

今後、オランダの在宅ケア組織 BUURTZORG で就業する看護師らに対する調査結果と比較検討することにより、より患者中心/住民本位かつ看護職の働きがいを高める多職種協働ケアステーションのあり方を検討するための基礎資料とする予定である。

A. 研究目的

本邦の訪問看護師の就業意識や労働条件、働き方や日常生活について調査し、オランダの在宅ケア組織 BUURTZORG で就業する看護師らに対する調査結果と比較検討することにより、より患者中心/住民本位かつ看護職の働きがいを高める多職種協働ケアステーションのあり方を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

（本稿では、本邦の調査および結果概要について報告する）

B. 研究方法

1. データ収集方法

自記式質問紙による郵送調査とした。

2. 対象機関

独立行政法人福祉医療機構 福祉保健医療情報ネットワーク（WAM-NET）に登録された関東 1 都 6 県の訪問看護ステーションデータ（平成 27 年 10 月 15 日 時点）において、取り込み区分が「0；有効」（休止・廃止等を除く）条件を満たす 2,589 機関（東京都 910 事業所、千葉県 326 事業所、神奈川 602 事業所、埼玉 340 事業所、群馬県 173 事業所、茨城県 145 事業所、栃木県 93 事業所）から、二層化無作為抽出により抽出された 500 機関。

3. 対象者

各対象機関に勤務する常勤看護職員のうち、調査協力の承諾が得られた 3 名の訪問

看護師。また、事業所に非常勤職員が在職している場合、回答者3名のうち、1名は非常勤職員となるよう依頼をした。施設票については、管理者に記載を依頼した。

4. データ収集期間

平成28年1月～3月

5. 倫理的配慮

調査票に協力依頼を添付して発送し、その返送をもって説明と同意が行われたものとみなした。尚、本調査の科学性および倫理性については、国際医療福祉大学の倫理委員会の承認を得た(15-Ig-79)。

6. 調査票の配布と回収

- ・訪問看護ステーション管理者経由で、常勤訪問看護師3名（非常勤職員が在職している場合、1名は非常勤職員）に配布を依頼した。
- ・各回答者は、回答した調査用紙を回収用封筒に封をしたうえで、管理者に提出、管理者は施設票および看護師票をまとめて研究者に郵送した。
- ・送付から約1ヶ月後にFAXによるリマインダー（調査協力への御礼と調査票を未送付していない場合は協力のお願い）を送付した。

C・D. 研究結果・考察

92事業所（18.2%）、257名の訪問看護師（17.1%）より回答を得た。

1. 対象事業所の属性

1.1 所在地

92事業所の所在地の内訳は、東京都（16.3%）、神奈川県（12.0%）、千葉県（14.1%）、埼玉県（9.8%）、群馬県（19.6%）、栃木県（16.3%）であった。また、介護報酬算定上の地域区分の分布を図1に示した。

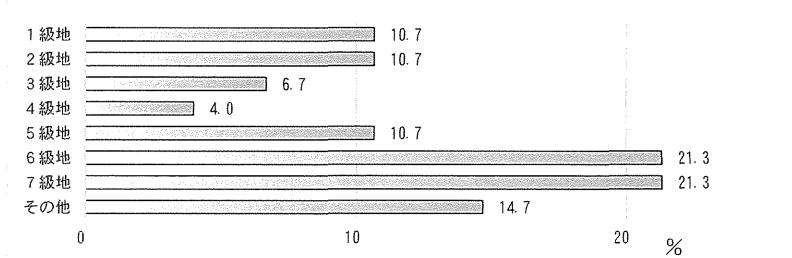


図1 対象事業所の所在地

1.2 事業開始年

対象事業所の事業開始年の分布を図2に示した。

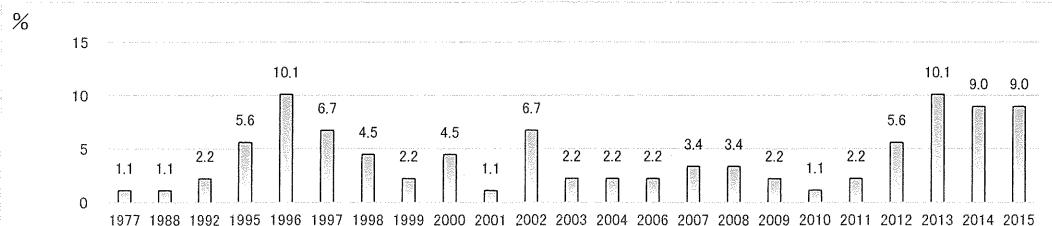


図2 対象事業所の事業開始年

1.2 開設主体

開設主体で最も多かったのは、医療法人（37.8%）、次いで営利法人（31.1%）、社会福祉法人（8.9%）、社団、財団法人（6.7%）、消費生活協同組合及び連合会（4.4%）、都道府県・市区町村・地方独立行政法人・広域連合・一部事務組合（3.3%）、看護協会（2.2%）、医師会（1.1%）であった。

1.3 加算の届出

加算の届出状況については、機能強化型訪問看護管理療養費1の届出（3.3%）、機能強化型訪問看護管理療養費2の届出（5.4%）、24時間対応体制加算の届出（83.7%）、24時間連絡体制加算の届出（21.7%）、特別管理加算（□）の届出（90.2%）、特別管理加算（□）の届出（82.6%）、ターミナルケア加算／ターミナルケア療養費の届出（81.5%）であった。

1.4 訪問の範囲

訪問の範囲（事業所からの片道）については、平均 28.2 分（SD 11.6）、中央値 30 分（Range 1-60）であった。また半径何 Km かを尋ねたところ、平均 10.7Km（SD 7.3）、中央値 10Km（Range 1-30）であった。

1.5 経営状況

対象事業所の経営状況を図 3 に示した。

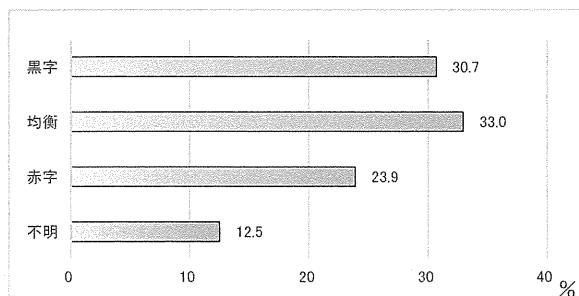


図 3 対象事業所の経営状況

1.6 平成 27 年 10 月のサービス提供状況

介護保険における看護職員の訪問（利用実人員数）の平均値は 49.1 人（SD 39.0）、中央値は 39 人（Range 1-291）、看護職員の訪問（延べ訪問回数）の平均値は 225.8 回（SD 40.1）、中央値は 201 回（Range 4-565）であった。介護保険におけるリハビリ職員のみの訪問（利用実人員数）の平均値は 16.8 人（SD 41.1）、中央値は 5 人（Range 0-290）、介護保険 リハビリ職員のみの訪問（延べ訪問回数）の平均値は、80.2 回（SD 191.9）、中央値は 33.5 回（Range 0-1492 回）であった。

健康保険等における看護職員の訪問（利用実人員数）の平均値は 18.9 人（SD 18.6）、中央値は 13 人（Range 0-116）、看護職員の訪問（延べ訪問回数）の平均値は 136.9 回（SD 213.5）、中央値は 81 回（Range 0-1844）であった。健康保険等におけるリハビリ職員のみの訪問（利用実人員数）の平均値は 4.9 人（SD 11.2）、中央値は 2 人（Range 0-64）、リハビリ職員のみの訪問（延べ訪問回数）の平均値は 22.3 回（SD 45.6）、中央値は 8 回（Range 0-298）であった。

1.7 連携先

指示書を受けている医療機関数の中央値は 18 か所 (Range 1-180)、連携している居宅介護支援事業所数の中央値は 18.5 か所 (Range 1-151) であった。

1.8 利用者の状態像

ターミナル事例（概ね予後 6 か月以内で死亡と診断されている）の人数の中央値は 2 人 (Range 0-19)、医療事例（ターミナル事例を除き、医療的観察・処置への対応が主なニーズである）の人数の中央値は 11 人 (Range 0-124)、認知症・精神疾患事例（ターミナル・医療事例を除き、認知症または精神疾患症状への対応が主なニーズである）の人数の中央値は 5 人 (Range 0-73)、他の事例（上記 3 つに該当しない）の人数の中央値は 22 人 (Range 0-352) であった。

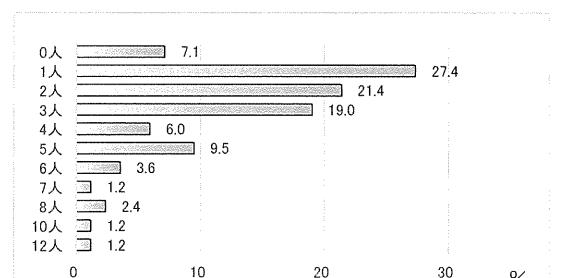
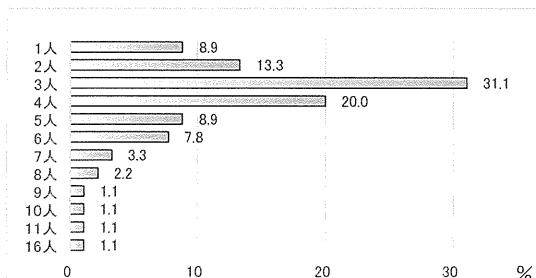
1.9 過去半年間の利用の終了

過去半年間に利用が終了した人数の中央値は 18 人 (Range 1-63) であった。このうち在宅で死亡した人数の中央値は 4 人 (Range 0-29)、また入院・入所の人数の中央値は 8 人 (Range 0-58)、在宅で軽快した人数の中央値は 1 人 (Range 0-12) であった。

1.10 職員数

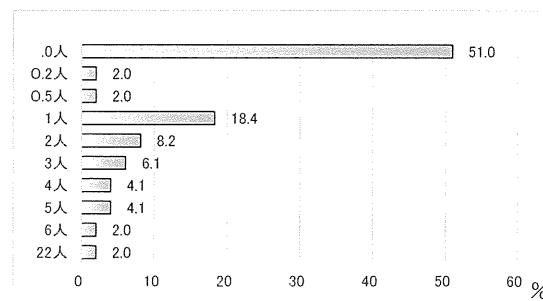
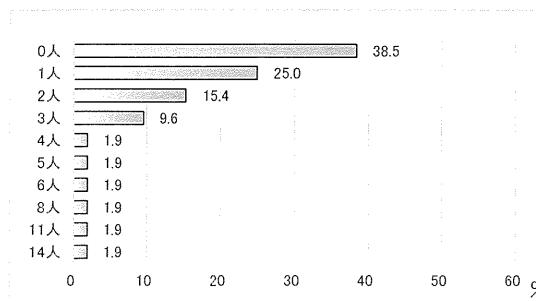
1.10.1 保健師・助産師・看護師・准看護師

常勤実人数の平均値は 3.92 人 (SD 2.4)、中央値 3 人 (Range 1-16)、非常勤実人数の平均値は 2.74 人 (SD 2.2)、中央値は 2 人 (Range 0-12) であった。実人数の分布を図 4、5 に示した。



1.10.2 PT・OT・ST

常勤実人数の平均値は 1.77 人 (SD 2.7)、中央値 1 人 (Range 0-14)、非常勤実人数の平均値は 1.48 人 (SD 3.3)、中央値は 0 人 (Range 0-22) であった。実人数の分布を図 6、7 に示した。



1.10.3 看護補助者

常勤実人数の平均値は0.6人（SD 0.2）、中央値0人（Range 0-1）、非常勤実人数の平均値は0.2人（SD 0.8）、中央値は0人（Range 0-4）であった。実人数の分布を図8、9に示した。

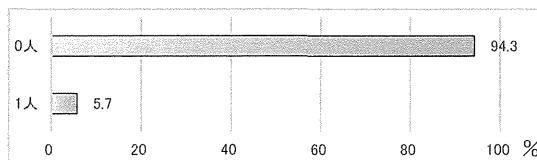


図8 看護補助者（常勤実人数）

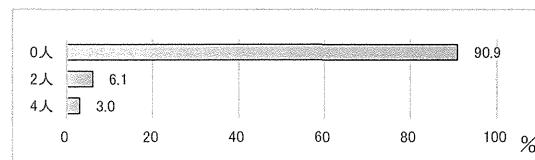


図9 看護補助者（非常勤実人数）

1.10.4 事務職員

常勤実人数の平均値は0.8人（SD 0.9）、中央値1人（Range 0-6）、非常勤実人数の平均値は0.8人（SD 0.6）、中央値は1人（Range 0-2）であった。実人数の分布を図10、11に示した。

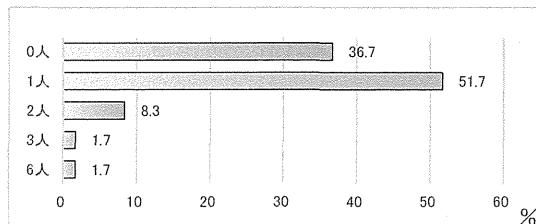


図10 事務職員（常勤実人数）

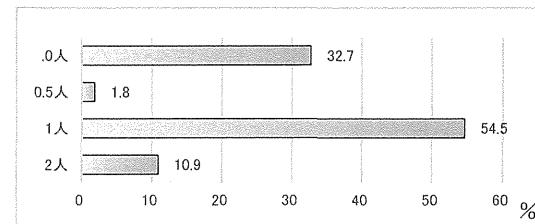


図11 事務職員（非常勤実人数）

1.11 看護職員の採用・離職

平成26年10月1日～平成27年9月30日までの常勤看護職員の採用人数の平均値は1.1人（SD 2.6）、中央値は1人（Range 0-22）、離職人数の平均値は0.66人（SD 1.4）、中央値は0人（Range 0-11）であった。同じく非常勤の採用人数の平均値は0.63人（SD 0.9）、中央値は0人（Range 0-4）、離職人数の平均値は0.51人（SD 0.8）、中央値は0人（Range 0-4）であった。それぞれの分布を図12～14に示した。

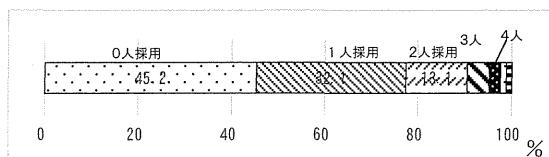


図12 常勤看護職の採用人数

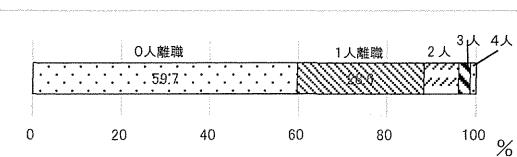


図11 常勤看護職の離職人数

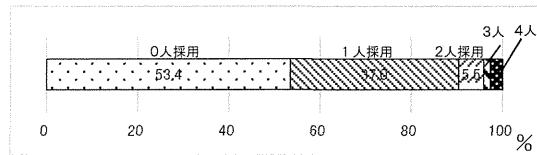


図13 非常勤看護職の採用人数

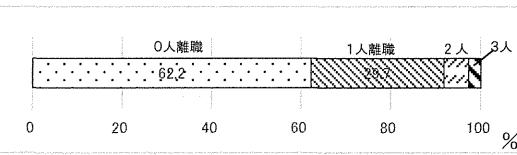


図14 非常勤看護職の離職人数

1.12 所定労働時間

常勤職員の週あたりの所定労働時間の平均値は39.2時間（SD 14.1）であった。

1.13 女性職員の就業継続の状況

女性職員の就業継続に関して最も多いパターンを1つ選択してもらったところ、

図15のような回答を得た。

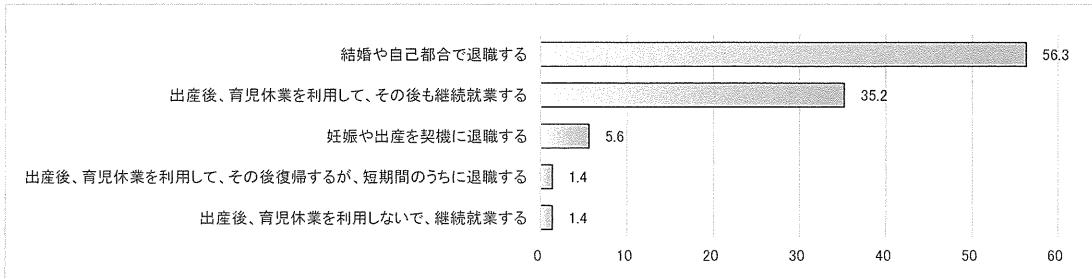


図15 女性職員の就業継続の状況

2. 対象者の属性

2.1 性別・年齢

対象者は、女性が98.4%であった。年齢については、平均値が45.7歳(SD 8.12)、中央値が46.0歳(Range 26-73)であった。

2.2 婚姻関係・パートナーの労働条件

現在、配偶者あり79.8%、未婚9.5%、離別9.5%、死別1.2%であった。

配偶者（事実婚のパートナー含む）の雇用形態としては、正規の職員・社員79.8%、パート・アルバイト・臨時・派遣など4.4%、自営業者・家族従業員、内職、在宅就業など11.3%、働いていない4.4%であった。

2.3 パートナーの労働日・労働時間

配偶者（事実婚のパートナー含む）のふだん1ヵ月間（31日の場合）の労働日の平均は、21.2日（SD 4.9）であった。分布を図16に示した。

また配偶者（事実婚のパートナー含む）のふだん1ヵ月間（31日の場合）の残業を含めた労働時間時間の平均値は170時間（SD 87.2）、中央値は183時間（Range 0-400）であった。

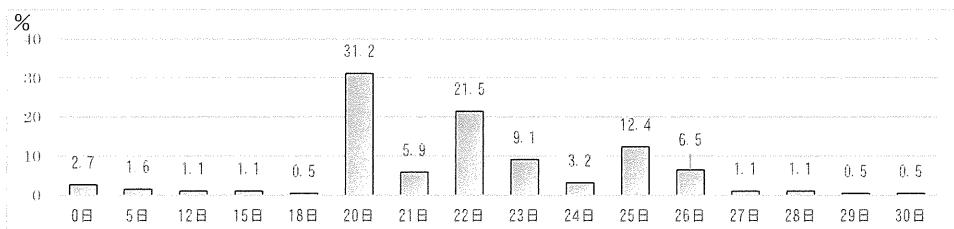


図16 パートナーの労働日数/月

2.4 子どもの有無と末子の年齢

子どもがいると回答したのは82.5%であった。子どもの数については、1人(17.6%)、2人(55.8%)、3人(23.6%)、4人(3.0%)であった。末子の年齢の平均値は、13.8歳(SD 8.53)、中央値13歳(Range 0-44)であった。

2.5 親族の介護

現在、あなた又は配偶者（事実婚のパートナー含む）の方の親族の介護をしていると回答したのは 7.7%、していないと回答したのは 92.3% であった。

2.6 日常生活における家事や介護の分担割合

家事や育児、介護の担当割合について、大部分を担当 76.6%、一部担当 17.7%、ほとんど/全く担当していない 5.6% であった。

2.7 同居家族の有無と人数、構成

同居家族がいるという回答が 83.8% であった。同居家族の人数の平均値は 3.8 人 (SD 1.4)、中央値 4 人 (Range 1-9) であった。同居家族の構成としては、夫婦だけ（1 世代）同居が 16.8%、親と子（2 世代）同居が 66.4%、親と子と孫（3 世代）同居が 13.6%、その他 3.3% であった。

2.8 主たる生計維持者

主たる生計維持者は、回答者本人 34.7%、それ以外 65.3% であった。

2.9 現在の地域（市区町村）での居住年数

現在、住んでいる市区町村における居住年数については、10 年以上という回答が約 7 割を占めた。回答分布を図 7 に示した。

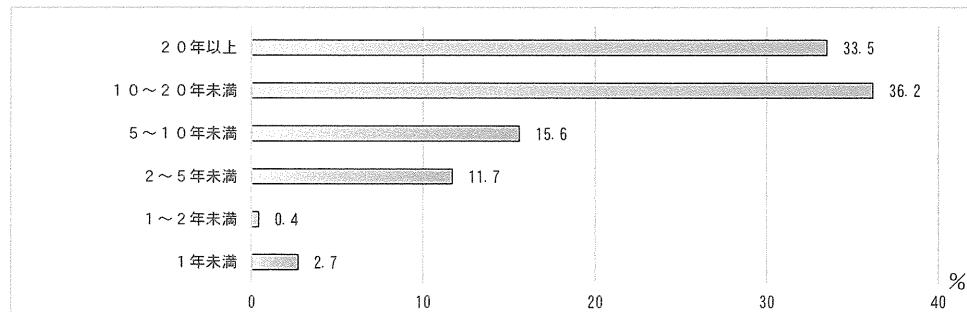


図 17 現在の地域（市区町村）での居住年数

2.10 経験年数と職場経験

現在の職場での経験年数の中央値は 4.0 年 (Range 0-32)、訪問看護師としての経験年数の中央値 4.0 年 (Range 0-25)、看護職としての経験年数の中央値 20 年 (Range 1-50) であった。

また現在の職場先以外で経験のある職場としては、他の訪問看護ステーション 57 名 (22.2%)、病院 228 名 (88.7%)、診療所 62 名 (24.1%)、入所施設 49 名 (19.1%)、その他の医療・介護関連の職場 54 名 (21.0%)、医療・介護関連以外の職場 30 名 (11.7%)、今の勤務先が初職 5 名 (1.9%) であった。

2.11 保有資格

保有資格については、看護師 232 名 (90.3%)、准看護師 70 名 (27.2%)、保健師 18 名 (7.0%)、助産師 1 名 (0.4%)、認定看護師・専門看護師 5 名 (1.9%)、介護支援専門員 49 名 (19.1%) であった。

2.12 現在の職場での職位

管理者 27 名 (10.5%)、主任・リーダー等職場のまとめ役 23 名 (9.0%)、それ以外 (スタッフ) 206 名 (80.5%) であった。

2.13 雇用形態

正規職員(雇用期間の定めなし) 185 名 (72.3%)、非正規職員(それ以外) 71 名 (27.7%)、常勤(所定労働時間が主たる正規職員と同じ) 177 名 (68.9%)、非常勤(それ以外) 80 名 (31.1%) であった。

3. 平成 27 年 10 月 1 カ月間の労働日・時間と訪問回数

3.1 勤務日／月

平成 27 年 10 月 1 カ月間の勤務日数の平均は、19.9 日 (SD 3.7) であった。

3.2 3.1 のうち土日・休日出勤の日数

平成 27 年 10 月 1 カ月間の勤務日数のうち、土日・休日の出勤日数の平均は、1.8 日 (SD 2.0) であった。

3.3 残業を含めた労働時間／月

平成 27 年 10 月 1 カ月間の残業を含めた労働時間の平均値は、117.5 時間 (SD 28.8) であった。

3.4 訪問回数回／月

平成 27 年 10 月 1 カ月間の訪問回数の平均値は、67.5 回 (SD 20.8) であった。

3.5 緊急訪問回数回／月

平成 27 年 10 月 1 カ月間の訪問のうち、緊急訪問回数の平均値は 1.3 回 (SD 1.0) であった。

4. 給与

4.1 平成 27 年 10 月の税込み月収(賞与等は除き、残業・諸手当等を含む)

平成 27 年 10 月の月収(税込) の中央値は、270,000 円 (Range 31,000-500,000) であった。

4.2 昨年 1 年間(2015 年 1 月 1 日～12 月 31 日) の収入(賞与及び残業・諸手当等を含む)

昨年 1 年間(2015 年 1 月 1 日～12 月 31 日) の収入の分布を図 18 に示した。

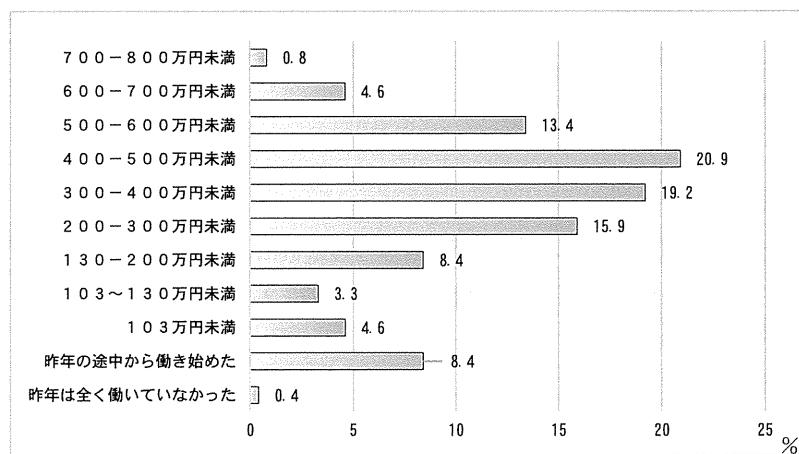


図 18 昨年 1 年間の収入額

5. 労働時間

5.1 現在の労働時間についての考え方

現在の労働時間に関する考え方に関する回答の分布を図 19 に示した。

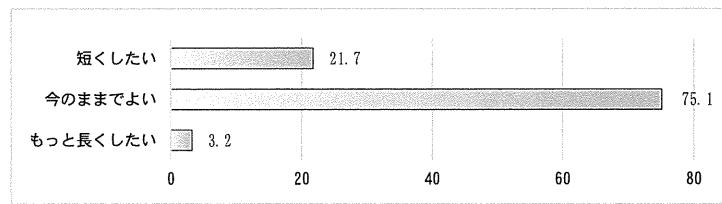


図 19 現在の労働時間に関する考え方

5.2 1週間の労働時間の内訳

5.2.1 利用者宅滞在時間

1週間の労働時間（休憩時間は除く）を 100 とした場合の利用者宅滞在時間の比率に関する回答を得た。回答分布を図 20 に示した。利用者宅滞在時間の比率は 50-59% とする回答が最も多かった。

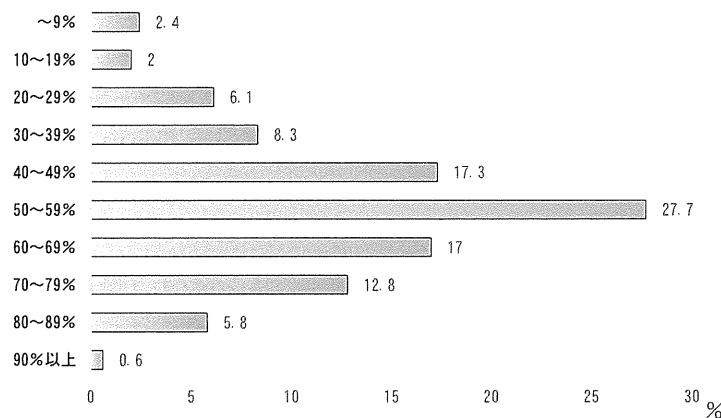


図 20 利用者宅滞在時間の比率

5.2.2 移動時間

1週間の労働時間（休憩時間は除く）を100とした場合の移動時間の比率に関する回答を得た。回答分布を図21に示した。移動時間の比率は10～19%とする回答が最も多かった。

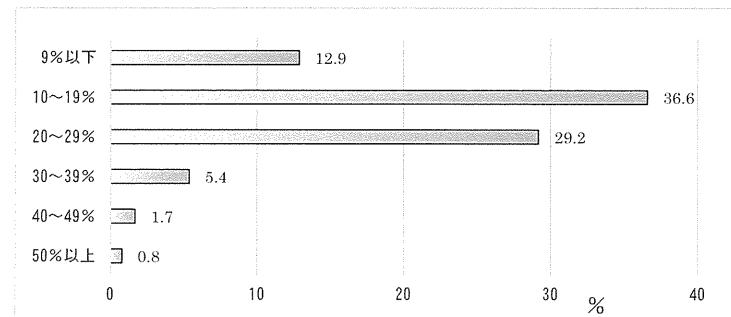


図21 移動時間の比率

5.2.3 記録・報酬請求等の事務業務

1週間の労働時間（休憩時間は除く）を100とした場合の記録・報酬請求等の事務業務の比率に関する回答を得た。回答分布を図22に示した。記録・報酬請求等の事務業務の比率は10～19%とする回答が最も多かった。

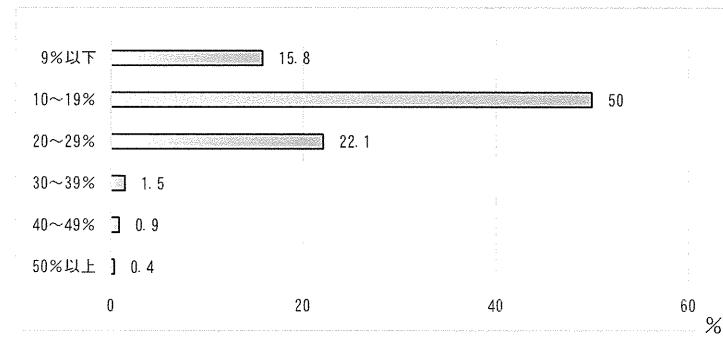


図22 記録・報酬請求等の事務業務の比率

5.2.4 事業所内での情報共有カンファレンス

1週間の労働時間（休憩時間は除く）を100とした場合の事業所内での情報共有カンファレンス等の比率に関する回答を得た。回答分布を図23に示した。事業所内での情報共有カンファレンス等の比率は、9%以下、10～19%という回答に二分した。

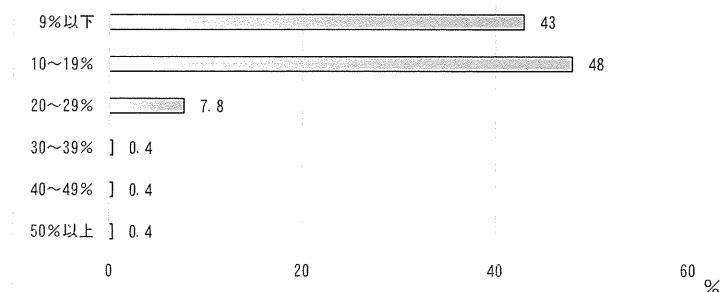


図23 事業所内での情報共有カンファレンス等の比率

5.2.5 事業所外を含む連絡・相談・調整・会議等

1週間の労働時間（休憩時間は除く）を100とした場合の事業所外を含む連絡・相談・調整・会議等の比率に関する回答を得た。回答分布を図24に示した。事業所外を含む連絡・相談・調整・会議等の比率は9%以下とする回答が最も多かった。

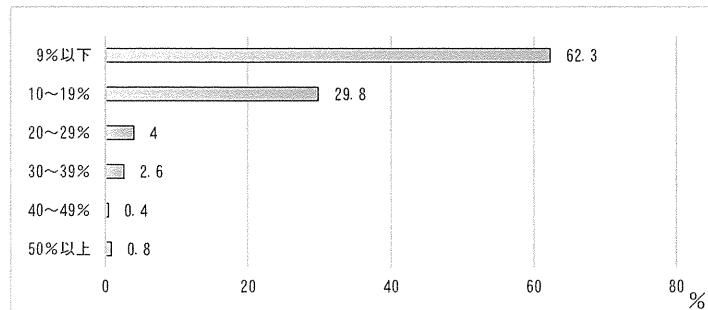


図24 事業所内での情報共有カンファレンス等の比率

6. 福利厚生

6.1 制度の有無と利用しやすさ

6.1.1 育児もしくは介護のための休業制度

現在の勤務先における育児もしくは介護のための休業制度の有無とその利用しやすさに関する回答を図25に示した。

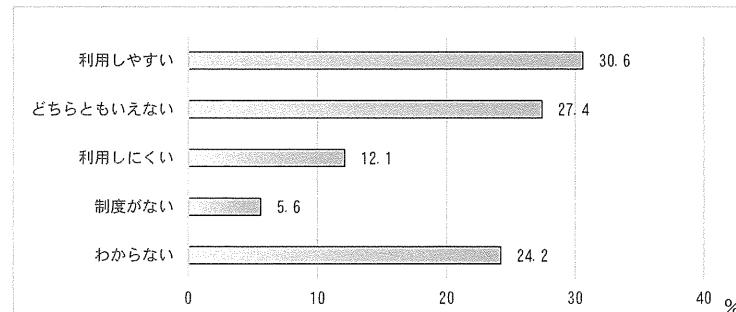


図25 育児もしくは介護のための休業制度の有無とその利用しやすさ

6.1.2 育児もしくは介護のための短時間・短日数勤務制度（夜勤の免除を含む）

現在の勤務先における育児もしくは介護のための短時間・短日数勤務制度（夜勤の免除を含む）の有無とその利用しやすさに関する回答を図26に示した。

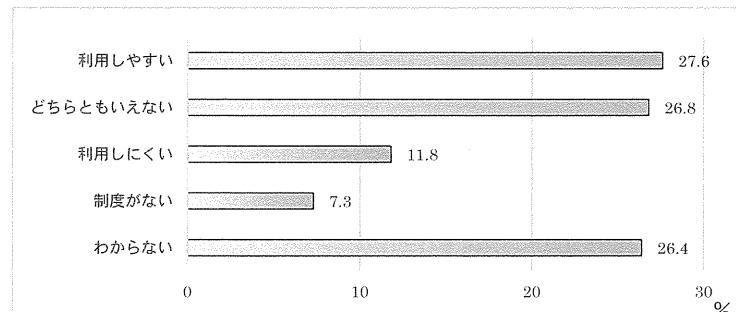


図26 育児もしくは介護のための短時間・短日数勤務制度の有無とその利用しやすさ

6.1.3 育児・介護以外を目的とする休業制度（ボランティア目的の長期休暇、学業・教育訓練目的の長期休暇など）

現在の勤務先における育児・介護以外を目的とする休業制度（ボランティア目的の長期休暇、学業・教育訓練目的の長期休暇など）の有無とその利用しやすさに関する回答を図27に示した。

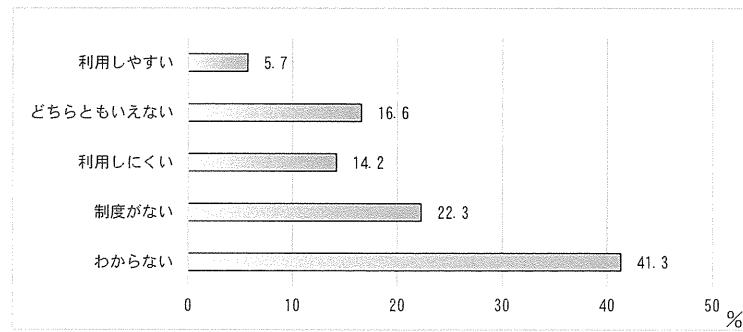


図27 育児・介護以外を目的とする休業制度の有無とその利用しやすさ

6.1.4 育児・介護以外を目的とする短時間・短日数勤務制度

現在の勤務先における育児・介護以外を目的とする短時間・短日数勤務制度の有無とその利用しやすさに関する回答を図28に示した。

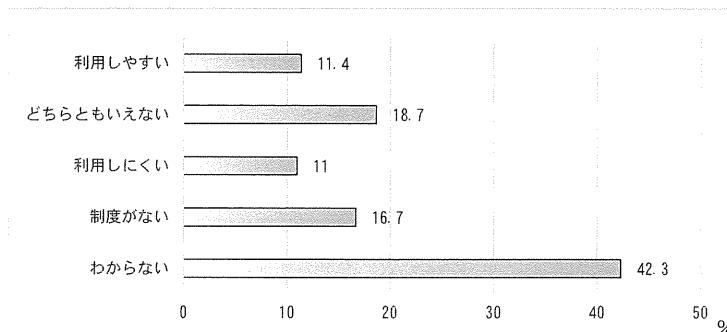


図28 育児・介護以外を目的とする短時間・短日数勤務制度

7. 就業の継続可能性

育児や介護をする立場になった場合、現在の職場での継続勤務の可能性についての回答を図29に示した。

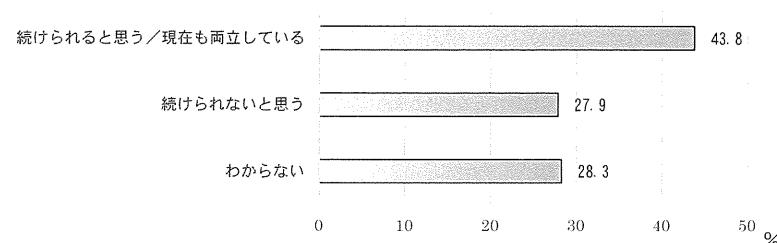


図29 育児や介護をする立場になった場合の現在の職場での継続勤務の可能性

8. 訪問看護師の裁量

8.1 排泄ケア

8.1.1 利用者が所有する下剤の選択

利用者が所有する下剤の選択をしているという回答は、82.3%であった。また実施している場合、当該行為の医師の指示に関する回答を図30に示した。

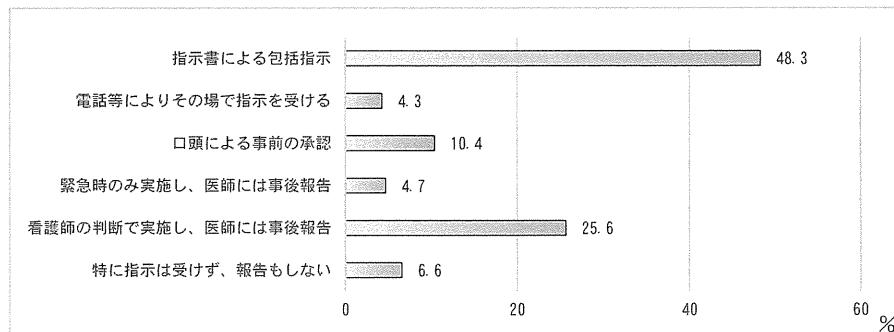


図30 利用者が所有する下剤の選択に関する訪問看護師の裁量

8.1.2 下剤の量の調節

下剤の量の調節をしているという回答は、91.6%であった。また実施している場合、当該行為の医師の指示に関する回答を図31に示した。

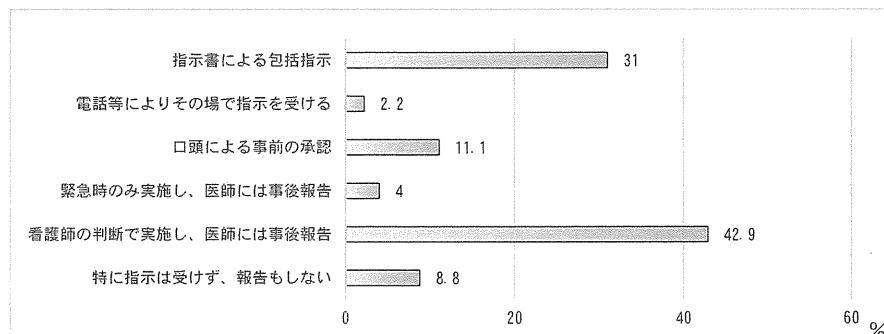


図31 下剤の量の調整に関する訪問看護師の裁量

8.1.3 利用者が所有する止痢剤の選択

利用者が所有する止痢剤の選択を実施しているという回答は、47.3%であった。また実施している場合、当該行為の医師の指示に関する回答を図32に示した。

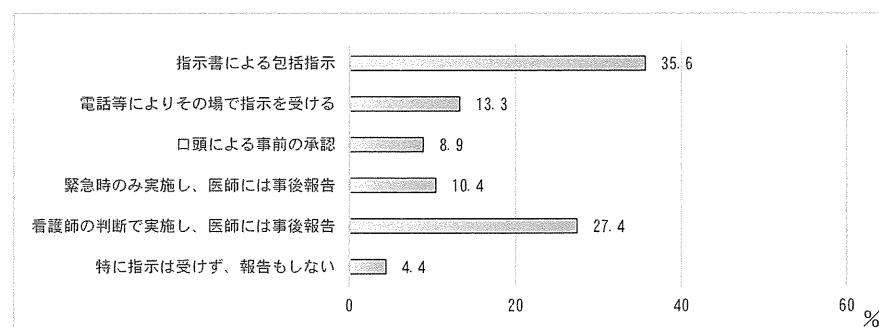


図32 利用者が所有する止痢剤の選択に関する訪問看護師の裁量